

# 令和元年お茶づくり技術情報 (No.7)

2019年(令和元年)6月4日  
佐賀県茶業技術協会  
佐賀県茶業試験場

## 1. 二番茶萌芽状況

表1 二番茶萌芽期(試験場内作況調査ほ場)

本年	前年
5月22日	5月23日

作況調査ほ場の概要

品種: やぶきた

樹齢: 18年生

注) 本年の一番茶摘採日: 4月25日(前年よりも1日早かった)

- 1) 茶業試験場内の作況調査園(定点調査園)において、二番茶の萌芽を2019年5月22日に確認した。これは前年(5月23日)と比べて1日早かった(表1)

## 2. 今後の管理について

- 1) 二番茶後の整枝・更新について

### Point 1. 樹勢の強弱、整枝のタイミング、深さを見極めて実施

樹勢が低下している園や更新時期が遅い園では、その後の芽の生育にばらつきが生じ、秋整枝までの充実と揃いが悪くなる。

### Point 2. 浅刈りを基本とし、1~2葉残す

成葉を残す程度に剪枝する(秋整枝面より1cm程度下げた位置)。

干ばつ時は剪枝後の芽の生育が遅れるため、なるべくかん水を行う。

秋整枝までの葉層確保のため、剪枝時期は早い方が望ましい。

(平坦部で7月5日までを目安、山間部は剪枝遅れの影響が出やすいので時期に注意する)

浅刈りをする場合、平坦部で6月10日頃までに実施する。

二番茶後浅刈り更新が可能な茶園とは、二番茶の摘採時期が早く、更新効果(枝の太さと密度の確保)が確実に期待できる茶園である。

**「細い枝」からは「細い芽」しか出てこない!**

### Point 3. 樹勢が弱い園では三番茶芽を放任して、枝と株の充実を図る

親葉が落葉して葉層が不十分、あるいは枝の密度が低い圃場では、樹体維持とともに光合成による同化養分の生成を促進し、貯蔵養分の蓄積を図るためにも葉を残し、既存の枝葉の充実を優先する。

一番茶後に中切りや深刈りなど更新した茶園では、65～70 日後を目安に再整枝を実施する。秋までの生育期間の確保のために、山間部では7月20日前後、平坦部でも7月末までに実施する。極端に芽伸びが悪い園では飛び芽の整枝にとどめる。

## 2) 高温・干ばつ対策

### (1) 干ばつ被害をうけやすい茶園

砂質土で保水性が低い。  
耕土が浅く根の張りが悪い、あるいは根量が少ない。  
日当たりが良すぎる、風通しがよいなどの環境条件。  
裸地が多い幼木園や欠株などにより隙間が多い。  
腐植が乏しい。

### (2) 事前の対策

無理な更新や遅い整枝は控える（新芽の生育が悪い中切り園の夏整枝も含む）。  
畝間からの蒸散を抑えるために、光が当たらないよう、裾刈りを控える。  
施肥のタイミングを逸さない、施肥後の中耕を行う。  
病虫害防除を徹底する。  
稲わら等有機物の施用により地表面からの蒸散防止を図る。  
pF2.3 以上になったら灌水が必要と判断する。  
畝間を深さ 20cm 程度まで掘って、乾燥していたら灌水が必要と判断する。

### (3) 干ばつ時の対応

畝間の耕起、深耕作業を見合わせる（状況によっては片側ずつ実施）。  
施肥は降雨前に行う。

### (4) 灌水での対応

可能であれば土壌が乾燥する前に実施する。  
夕方の時間帯に行う。  
スプリンクラーや灌水施設がある場合は、20t/10a/日を7日おき、  
または4t/10a/日を2～3日おきに実施する（目安）。

### 参考：干ばつ状態になると

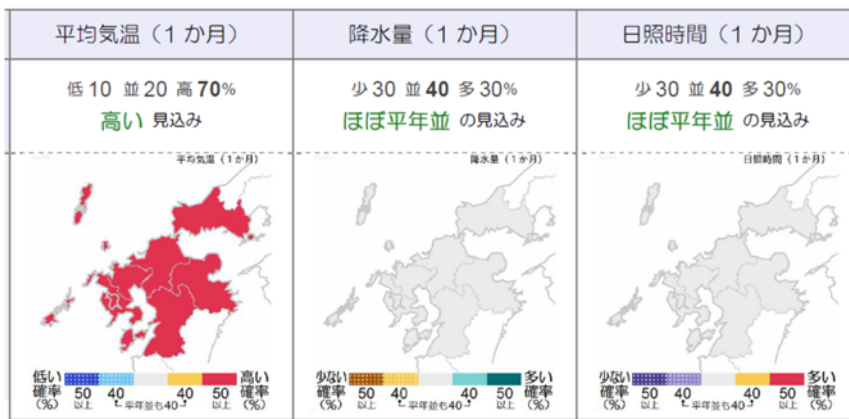
葉裏の気孔が閉じ、水分蒸散を抑制 ⇒ 炭酸ガスの取り込みが減少し光合成抑制  
⇒ 樹体内温度上昇 ⇒ 葉焼けの発生（細胞の崩壊） ⇒ 茎・細枝の水分減少  
⇒ 落葉・枝枯れの発生

### 3) 病害虫

病害虫防除については、『平成 31 年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。

## 3.気象及び土壌

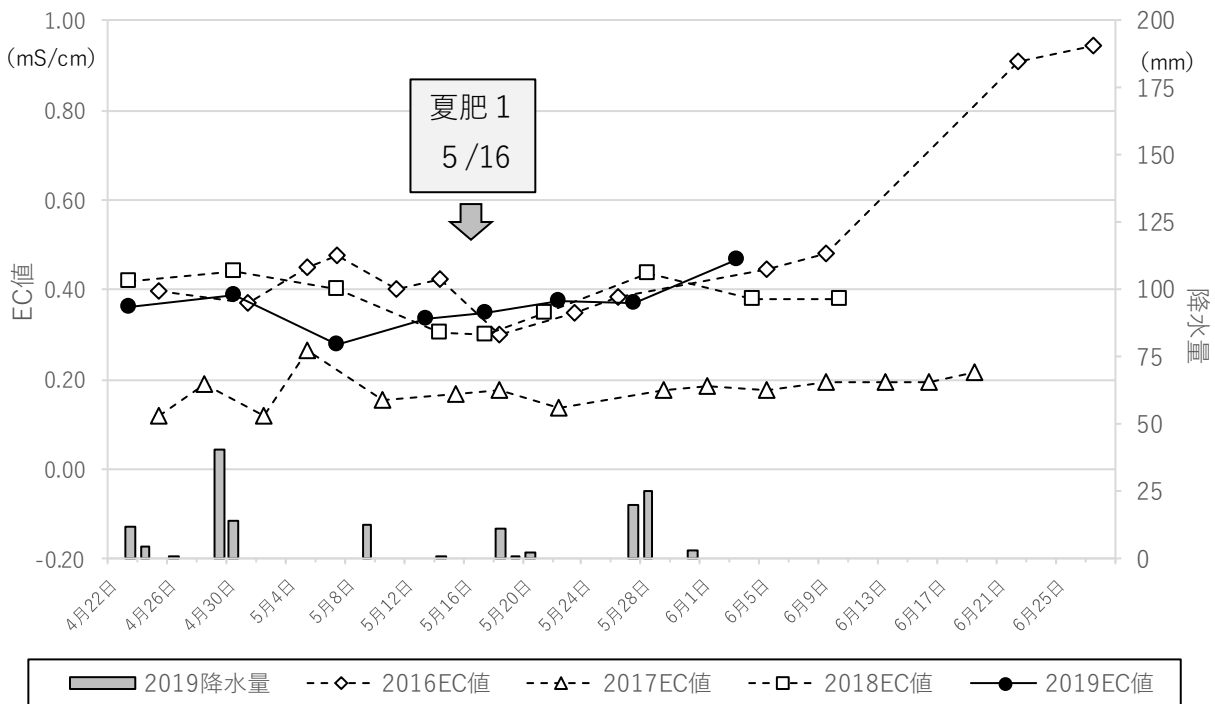
1) 1ヶ月予報【九州北部地方】(6/1~30) 福岡管区气象台 令和元年5月30日発表



向こう 1 か月の気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込み

降水量は平年並み

2) 試験場内作況調査園の土壌 EC 値と降水量の推移 (2016-2019 年)



- 1) 試験場内の作況調査圃の土壌 EC 値（最終：6月3日測定）は、前年並み。
- 2) 平年と比較して降水量が少なく、直近3週間の EC 値は、ほぼ横ばいで推移。  
5月27～28日に降雨（合計45.5mm）があったことから、今後は EC 値が上昇すると予想される。